



野党統一候補・11選挙区で当選 日本共産党・改選3議席を6議席へ躍進

	参院選党派別当選者数 (選管確定)					
	当選者数 (改選数)			非改選	新勢力 総定数 242	公示前 勢力
	合計 定数121	比例 定数48	選挙区 定数73			
日本共産党	6 (3)	5 (3)	1 (0)	8	14	11
自民党	56 (50)	19 (12)	37 (38)	65	121	115
民進党	32 (45)	11 (17)	21 (28)	17	49	62
公明党	14 (9)	7 (6)	7 (3)	11	25	20
お維新	7 (2)	4 (2)	3 (0)	5	12	7
日こ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3	3	3
社民党	1 (2)	1 (2)	0 (0)	1	2	3
生活の党	1 (2)	1 (1)	0 (1)	1	2	3
新党改革	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0	0	2
諸派	0 (1)	0 (0)	0 (1)	3	3	4
無所属	4 (4)	— (2)	4 (2)	7	11	11
合計	121 (120)	48 (47)	73 (73)	121	242	241

※公示前勢力は欠員1
※無所属で当選した中西健治氏は追加公認した自民に含む
2016/07/16

兵庫選挙区

金田峰生さん健闘

各候補者獲得得票

金田峰生 (共産)

228,811票

当 末松信介 (自民)

641,910票

当 伊藤孝江 (公明)

542,090票

当 片山大介 (お維新)

531,165票

水岡俊一 (民進)

420,068票

選挙結果をどのようにお感じでしょう 改憲派が衆参で3分の2確保



「立憲主義を取り戻せ」「民主主義を確立せよ」「憲法違反の安保法制は廃止」と、市民がその実現へ野党は共闘すべきだとの声で取り組まれた一人区での統一候補者。

32選挙区のうち11の選挙区で当選を果たし、得票を分析すると、野党が獲得した比例票より多く統一候補者は得票していました。野党共闘の効果が出ていたこととなります。

当然今後の国会運営で野党は試されません。選挙目当てだけの共闘ではなく、国民・住民に寄り添った政策を共同して訴えていくことができるのかどうか。

安保法制だけでなく、暮らしに直結する経済政策、雇用、原発、防災や災害支援、子育て、TPP、医療、介護など、どれも住民にとって重要な政策です。

裏面に選挙結果についての共産党声明を掲載



くらしの

「由さん」の 便り

2016年 7月 362号

川西市議会議員 (日本共産党)

住田由之輔 すみだよしのすけ

連絡先・下加茂 1-24-23

ケイタイ 090-9283-6739

参議院選挙結果について日本共産党の考えを中央委員会が出しています（7月11日）。簡単にまとめましたので一読ください。

「自公と補完勢力」対「4野党プラス市民」という対決構造

野党と市民が力を合わせてたたかう初めての選挙。日本共産党は野党共闘の勝利と日本共産党の躍進という2つの目標を掲げてたたかった。

最初の挑戦としては大きな成功、32の一人区すべてで統一候補者を実現。11選挙区で自民党に勝利したことは大きい。

無党派の6割から7割が野党統一候補者に投票、「1+1」が「2」ではなくそれ以上になり、共闘効果が発揮された。

日本共産党は比例で5人、東京選挙区で1人当選し、比例代表選挙では、2013年の参議院選挙で515万票獲得していたが今回は601万票へ躍進した。

首相自ら政策を語るより

野党批判に執着

首相は連日のように、野党攻撃、日本共産党攻撃を繰り返す異常さであった。

それは野党共闘に本格的に踏み込み、政権打倒を掲げる日本共産党に対する支配勢力の強い危機感、恐怖と憎悪を示すものであった。

「野党共闘は野合」とする自公の攻撃に対して、「立憲主義を取り戻す」という野党と市民の結束の大義を太くしめし、断固反撃した。

自衛隊問題を利用した反共攻撃に対しても、わが党の綱領が明らかにしている自衛隊政策を堂々と示し、「海外で戦争する国」づくりを許すのかどうか選挙の真の争点であることを明らかにしてたたかった。

そうした中での勝利であり意義は大きい。

安倍暴走政治ノー

アベノミクスのチェンジ

日本共産党は安倍暴走政治全般にわたってノーの審判を下そうと訴えました。

中でも安保法制を選挙の争点に押し上げましたが、選挙期間中安倍首相は憲法改正・自民党憲法草案は一言も語らず、結果は改憲派が3分の2の議席を獲得。

また、アベノミクスの破たんを明らかにし、それに代わる日本共産党の経済政策、税金の集め方を変えるなど3つのチェンジを訴えました。

野党共闘の勝利、日本共産党の躍進は果たしたが、党の自力が追いついていない

選挙戦から導き出した率直な教訓です。

結果良しとするだけでなく、党の自力をしっかりつけてこそ、住民との共同も、野党との共闘も前進し、日本の政治を変えることにつながっていく。

日本共産党の果たすべき責任を見極め、強く大きな党をつくっていかうと呼びかけました。